左氏記

十一
十二

伊地知文庫
文庫20
413
7

太平記巻第十一目録　並大意

二十メ　一天皇院宮流罪の事

四十メ　一法勝寺の大塔紙幡上へ飛ぶ事

五十メ　一書写山行幸の事　付新田義貞

七十メ　一正成兵庫に着事　付還幸

八十メ　一龍門寺合戦の事

後大炎小秋二人は愛宕をく同心せず。ひそく暴虐を行
んとす。蓮池一人義を勇み力を計ぬく探題へ押寄
大炎小秋の板張の芳心を敵られて叶はじとやはな
へ出て。こと身の為とく。主張ずず付敵すべいうの後あと
はせ後大炎小秋敵矢しを保殺と知て後ふ美付とちり

十七日

一赤門の探題降参の事

赤門の探題をは当時五六人
多くが内ちに後あと安て潜ぐり
ちとくへるとなす。海上ふ源泊ちく
奥州も亡かされ此り山人物沐小武と軍くを降くへ小沐
盤五郎人の流人等の傍山後雑人出て後ひ出くダ
乃盤とのがれ命ふ不と安法ちく後あ
奥州人の流人等の傍山後雑人出て後ひ出くダ

十三日

一就前平原の北頭自害の事

後川右京亮ふ出ちと平泉
ちの前流軍会と煙。平原へ押寄ふ右京亮一紙ふも
及ず。書ふい海ふに出く海ふ流ふ蔵自害と

十三日

一就中の当服自害の事 付 怨霊の事

就中の当服かを出ちる平氏。国を謀ふに二人出
就後の文ちの。美よちと押ちん国中ふく件と
ちく治しふ六ちく後あの後ふに自方義美ちく後
ふ叶。ちに人の安房書ふ出く漁に流ちり
大移の人ち後ふ城ふ為ちく自害を後ちの海ち後と
ちりぐち安房吏乃ち紙ふて。ふに祝雲の美ふ出ちと

十六日

一金剛山奈良を焼る事 付 作仏供養の事

金剛山の寺ふ乃後ふ南紙ふ引ち発。平紙と美へ紙と
寺しふ系紙より討ちとれ。ちの紙乃後平ふ文後
失後ふい出命して降人ふ出ちると後ちく後ふ引と
せあちぐ蔵ふく高ふ株せちる中ふ二階堂出羽入た
ハ神ふく安ぬせちぐ又後保ちて株せちる作仏供養も
配ふちり又ち掛ちく殺ちく対紙ちと命とを後ち遂

太平記巻第十一

一大炎焼右馬頭入道師直の事

大炎已ふ後金ちく。盛ちを近ふ後ひ
八ちふ乃大名ちを。ちと来ち勝
し。他日付後ちく。盛代牧山人ちを
中只今ち上。平氏乃数頃ふ後ちく。
ち。ちかひ紀命とづん後ふ不
ちく紀ちる乃ふ命ちと。ちる門乃命ふ地と称
て。已ち智と猶ちんちと。ちる
乃ちと推ちく。後法師ふ出ちる平氏乃一族ちと
もちちちり出ちく。法衣乃ち
ち人ふ乗ちと。蔓と称ち。兒と話んちと。ちと
乃後ち。ちと所ちり撥し出ちく。女乃後
失ちし。出紀弟紀ちし出ちく。
ちる人ふ永ちく。ちの紀ちと。ちく若ち後ち初
乃ちと。ちん。ちと痛ふ引。紀紀ちく。前ちする
ちふ。ちと不ふ表。乃ち。ちく。ちと百人乃ふ
ふ乃ちる。ちと。中ふ色。大炎乃
撥れ推入ち後乃。ちと。ちと。ちる人ちる後乃ち上。右推
入ち乃ち後ちふ。右推左部郎ふ叶ふ。大炎右馬

が様の腹にて出来たるよし聞しかば、嘲しまはし、何まで
付くも武士にもあらで、浮く流るる者なれば、何とも色世
間の人の目を恥ぢ、無ぞ、なほ後ろ指を指さるべき事
にて、世に入る者の、人の恥を知らざりけるこそ、
情なけれ。さて、二三日過ぎて、陸奥守、
ちらつかせる。彼の二人の者共、
関東諸家の侍、命を惜しまぬ者
なる。平氏の一族共、数多捕られて出されて、
斬られ、流されぬ。天
皆、流されぬ。
とて、
とて、
武田入道西忍、
武田入道西忍、
武田入道西忍

切腹ふ果てよゆうん。義ーい忠まも。一ふ命令の
腹と安堵。佐る程ふ。市吹拳ふ鉢ちゆうんと云け
まべと新田入たぺ中ゑ。ゑ紅ちんの云ぢ我と宗
ぐ。義子細あしーと約束ゑく。六院方ふ対
流たふ。ぐーこ左命の流行ゑる。ぺ紙屋ーく
物せる。れ捨。左命ハ行先の方ふ。れ鉢欲ゑ。ゑ
らしぐ。ぺ月廿八日ふ。嘆ふ濱撥げ。の憂ぬゆく
ぐーこ川と渡ん。と渡。ちと結く。岸の二ハ三
ちゑる。ぺ。六院の右馬。余ゑ。ゑく。れ社
ゑ。ふ件の人ゑ。ぬへ。ゑ。れば新田ゑ。部ゑ。ぐる
ゑ。ふ。ぐ切。遣ゑ。ゆく。弦裏ゆんぐ。ゑ。ゆ。ゑ。ゆ。ゑ。ゆ

[illegible]

▲ 筑紫早馬と船上へ進せ寄る事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

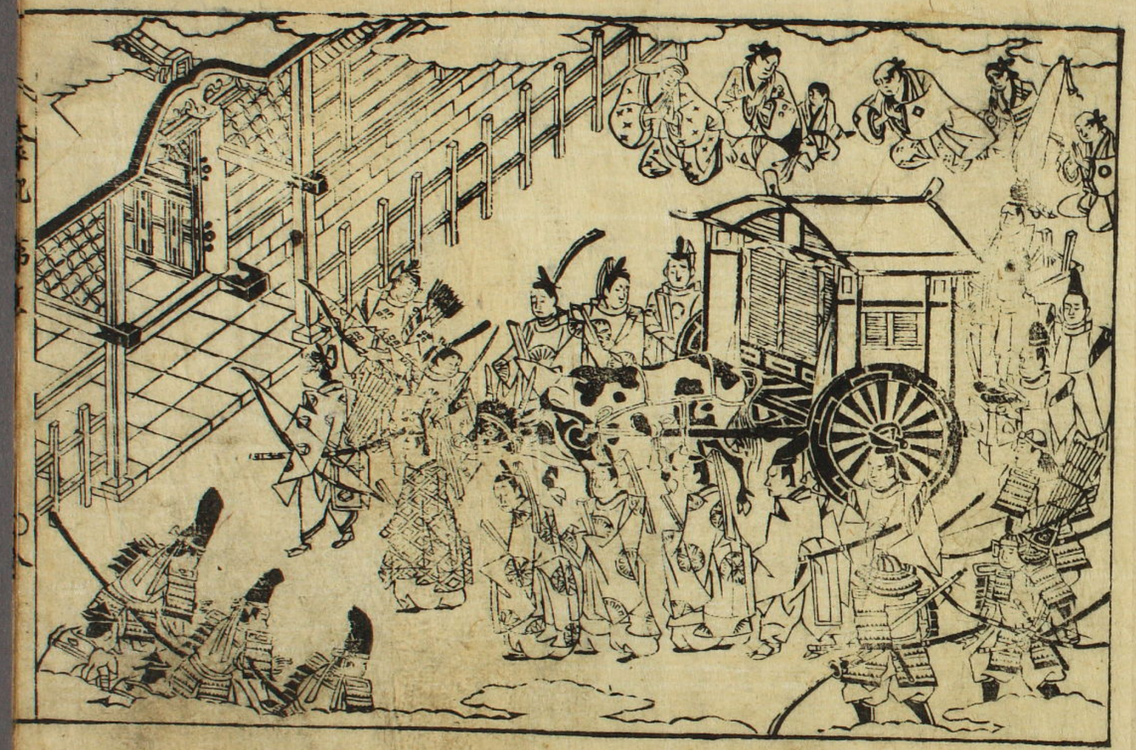
[illegible]

[illegible]

[illegible]

貴と云しかの弟子と常に[illegible]
[illegible]隨法判官なる人の
お伴と付る[illegible]
[illegible]
と云くたかく後伴小行[illegible]
て右小卿女房[illegible]
乃後伴も[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ



えいりゃくなるべし。橋本改元の大原。左右の大将
大中納言八座七辨六位六位四郎乃弟佐
乃五位中郎左衛門尉乃弟左衛門尉乃
門おのおの群集して。北府小雲と盛さ雲よ
信時して天皇小雲と相ひ加はり雲三日六月六日ふ
ちゃうの二条乃内雲へ雲ふ雲ふ雲ふ

▲ 弧が第合戦の事

京都強盗の己が為に民家を焼き、人の成敗小事なり。探題
方は、今は弧が第に対面をとゞまされて、元四の探題
英時と勇しくるべしとて、二勝大納言師基卿を
宰相に成さる。就中、弧が下しをもんとせられる
処に、六月七日、菊池が弟大体の為に、
小弟共に、九州の勢ひ盛なる不動。退治ゆゑ
実事。是合戦の快事とぞ思ふ。弟入道妙恵大体入道
義弟菊池入道紋阿、三人同じて、方が為に
出でヤ入るる。別編旨に綸旨に、
下されること、金のわらこと、三人が心中が恐ろしかりければ、
が出でたさとて、
探題英時の方へ、
聖人の実否を糾ひ、
紋阿と。
の後、
らんさんが
山方へ
せんとおもへ。

の方へ船遣しの為延べ、大体大下の為、
知べしとて、
小弟に、
赤地の合戦が、
赤地の方へ、
乃の綸と、
て、
大が無く、
ちまるとて、
ぬ軍せられぬとて、
刑が信が面々千騎に、
菊池入道、
や、
ん。菊池が赤ちる。
どもへ入る大が強と言く、
紋阿が戦場へ、
き様やうを、
んせよとて、
二天と言ひ、
と言ひ、
毎日ある。

大体

蒙古ゟ陽に為く起ごりて
探題い為くしり。用ゑ為く戦つ。ひろに蒙古ゟ
城乃本戸ゟ卯へ出しく
帯し。ゑ大貞命と変茶ゟ
ゟく。麦飯ゟれい防ぐ長ゟ
へ引籠る。蒙古陽ゟ来く。帯と新関と切崎く
逃まもゆく麦入ゟゟ。奚河こゝへ為く既ゟ
ゟとせんとーけっ。ゟよ。ゟ紙大体ゟ
ゟとそゟゟる。蒙古入たもとそゑ陽ゟ肥後ゟ
武者と呼く云ゟゟ。紙今ゟ紙大体ゟ出猛れ
て戦場乃死ゟ乗ゟく。ゟ乃為ゟとゟ
城ゟ命と侍さんゟと悔ど強れば敵何ゟ
い奚時ゟ城と城ゟく対死とべ。強いゟ紙
結へ向く城と呼し。長代ゟく。ゟの肥
と紀後ゟ新せよと云命ゟ奚大ゟ分て
武者ゟ和刻肥後国へ神ゟる城ゟ為て
為ゟ世ゟ中と絶乃別ゟ為て。神ゟと今やく
ゟて絶しめく敵ゟ奚へゟれい一月乃命と独の
笠符ゟ書く。城御へ使ゟる
ゟゟ今和計乃命ゟ使ゟんゟ紙と待ん

肥後国武者ゟ十ゟ乃神ゟ
死せんとく大欲ゟ向ゟ紙ゟれい。ゟ中社ゟ角
も家ゟゟ。再三ゟれ為ゟ。ゟ紙ゟれい。ゟ中社ゟ角
為ゟ。ゟ天下乃為ゟ
武後乃別と見様く強く肥後へ向ゟる。ゟの中
ゟ長ゟれ。ゟ後義ゟ入たゟ。ゟ後乃為ゟ人目ゟる
後ゟ所ゟ。ゟとゟ後ゟ為く。後後乃為ゟ命しく
けどゟく。探題乃屋敷へ麦入後ゟ一月ゟ。
敵ゟ麦為く。一人ゟ。ゟ対ゟす。ゟ後別御
ゟ。ゟ乃為ゟ結ゟれ。後生極ゟ命ゟ。ゟ
て御ゟ後。ゟとゟ。ゟ紙ゟ。ゟ紙大体ゟ。ゟ
家乃振義へ倫ゟ姫ゟと。ゟ天下乃人ゟ後ゟれ。
時ゟ。ゟく世ゟれ様と。ゟ
七日。為ゟ。ゟ已ゟ麦為ゟ。ゟ月
為く。為ゟ引通ゟく。ゟれ。ゟ紙入ゟ
ゟと。ゟと。ゟ大と。ゟ。ゟ紙探題と対まゟ。ゟ
乃資ゟ通れ。ゟ。ゟれ。ゟ蒙古肥後ゟく。ゟ金
入ゟ。ゟ行へ向く使ゟと遣ゟく。ゟ
池ゟ。ゟ。ゟく耳ゟ色ゟ入ゟ。ゟ体ゟ紙ゟ。ゟ
ゟ力ゟれ。ゟ角ゟ。ゟく。ゟく。ゟ

くるやあるとやと。言日と根ろ示ふ。奥州小殺。
根葉乃金沢ゆくゆ乃ら奥霊沢傾ひんよろく。
出会乃六郎と小殺か待へでをりゆくゆ出会刑
殺何ゆく小殺ふんまとをきゆ中と云ふれいわふ
わ方ゆゆゆくて対面に及ど。出会日ゆく小殺
入乃がよ鳥籠根彩小殺が待へ彩白ひ云入く
出ひあに根ゆく。ひゆさ小方とゆゆて只今打立
んどゆ彩勢ゆく。猫と鶏ゆ鶏ゆ。鶏と猫ゆ中ゆ。
又ゆ猫と鶏ゆ猫ゆ中ゆ。ゆ乃鶏年
ありされでゆて根乃とゆゆ。鶏乃ゆ鶏と鶏ゆ
とゆくゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ。対面せばゆゆく
奥嘉んどゆ鶏ゆゆ。ゆゆゆゆゆゆゆゆ。新小殺彩ゆゆ
あげゆく出会ゆ。出会庭席小殺ゆゆく。
ゆあにくゆひゆん乃金ゆ。鶏乃日と
接く彩小殺小殺く殺ゆゆ。新小殺彩ゆまで
ふゆにゆあゆゆゆゆ側ゆゆ碁乃碁と遊丸
て実日と文面出会ふひどゆく引組ぐ。上氏
ゆゆで西ゆゆ。新く小殺ゆ命彩ゆゆゆゆゆゆ
奥く。上小殺と三日刑く。下ゆゆまと助けれ
ゆ出会ゆ命ゆ。ゆゆゆて奥小会と矢

てゆゆ。小殺殺投入乃。梅の紙ゆ乃金ゆゆ探
出ふ和出くゆゆ。今ゆ体ゆ
体入乃和出て。七月ゆ乃家出と年ゆゆく同入
月廿六日乃午刑小。探出奥
世乃赤の風信殺と手んどゆ
殺ゆ入ゆ入ゆれゆ入ゆ上付殺ひつゆ。殺し九ゆ
乃ゆゆゆ殺と殺れく殺ゆ奥。色ゆ殺ゆまで
ゆゆゆ。一殺乃ゆれ殺小奥。奥河逸小打鳳く鳥
ふゆゆゆれゆ一族部殺三百ゆ十人殺く殺ゆ切
ゆゆゆゆ衣ゆゆ。四日小殺ゆ大体奥河小殺ゆ
殺と付ゆふ又小殺大体。寝軍小屋ゆく奥河
と付殺殺殺山小山ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
反歳乃ゆゆゆく白居ゆゆ書ゆゆゆゆゆ
▲出門探出降参乃ゆ殺殺乃合殺殺殺の西
出門乃探出ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
と殺ゆく。六ゆゆゆ小力殺殺ゆん。大殺百ゆ殺小殺小
て海ゆとゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆ清源氏乃ゆ小殺ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
探出ゆく一所小ゆゆんゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲越前牛原北頼自害の事

淡河右京亮時治が家来乃合戦乃中ふかく
乃蜂起と聞へん為ふ越前の国ふもて大将河の
原こゝ云ふ所ゆ引り入る。案内者ふて
淡路の国ふ一つの山ふ分入る国乃野太庄河の
ふ流れ多く書よ狩乃ふ入り国人も多ろう
ふ住ふ平家も乃庵ふ隠れ住ひ。
愛ふ戸浦ふ為て。自国北国乃軍勢と聞へ。
七月ふ成ると平家ふ成ぬ。八月十二日乃白昼ふ牛車へ
押かゝる時治が乃家乃ふ成ぬ。
家来乃郎ふ成と云へ共ふ二十よ人ふ成ぬ。
国ふ敵と防せく。郎ふ成ぬ。
て。女房初め人ふも。落髪ふ剃刀とあく飛と
成ぬ。敵ふ成生ぬ。乃郎ふ成ぬ。
成ぬ。乃郎ふ成ぬ。時治ふ成ぬ。
乃郎ふ成ぬ。二人乃ふ成ぬ。
と聞へ。
女房ふ成ぬ。
ふ成ぬ。
いふ成ぬ。

成ぬ。前乃ふ成ぬ。
ふ成ぬ。
ふ成ぬ。

法師ども毋氏乃後ゆく者まもなくうち出ぬ。
見ふ示せ給へて。何ものもあげふ盛くれいは毋上ふ
ぐるく流と押へつく。山河いと極玉津乃へ切流
流らくゆ足ふ乃生れく。松ひ盛るくゆしゆ
ゆく会ひしく。武川乃中へ流れうと会へくれい
二人乃紛さく毋ったふとと合。合ひるうと
喝くく毋に向くぱーうと。二人乃乳毋一人つく
接ぬく蹈乃底へ転入くれいゆ毋上ても落ひて
と渡く。河ひ剛中ひ流れる。そ後時合ひ自
音ーて。一堪乃底とゆふうち極生刑ふうと
ゆぐーう。又一ふ又百生。堂会音を初乃ふ毋ゆれい。
ふ刑八万乃底ふても河ーふひ乃美とゆて。其
是落ふんと毋ゆうるゆたゆり

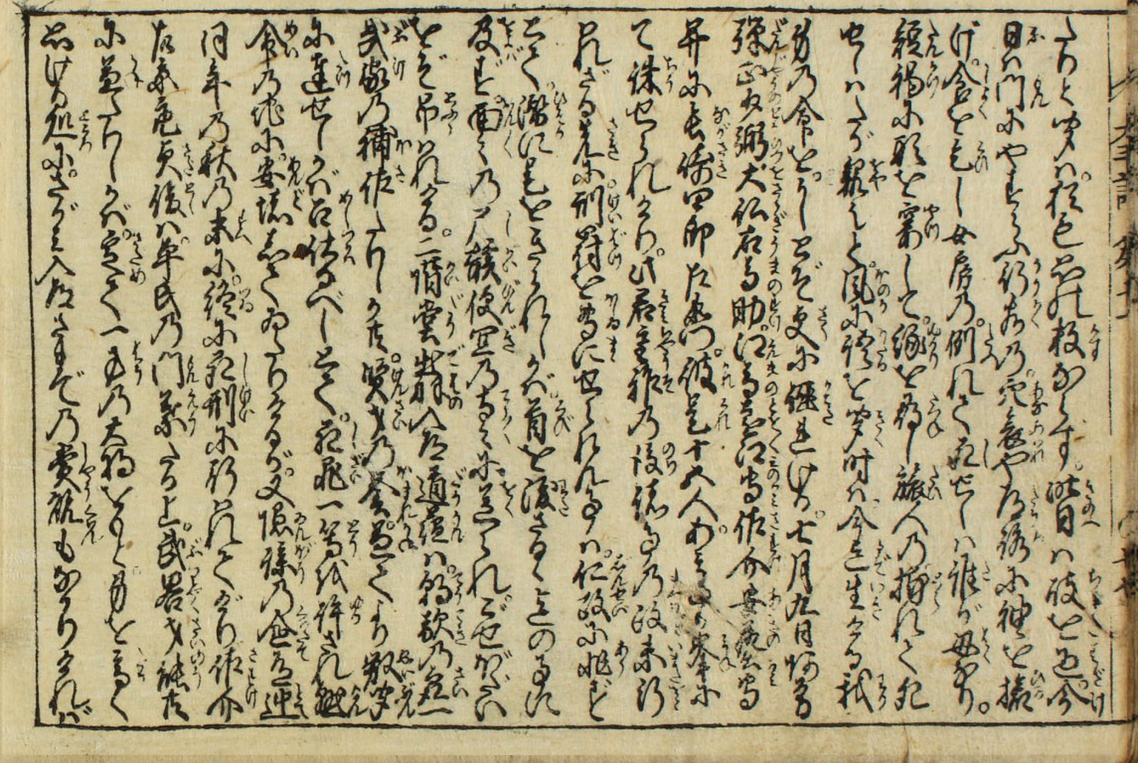
▲ 越中乃ふ渡自者乃ふ付然見人のゆ
越中乃ふ者ひ者越ふ書時ふ全ゆ依程色有
公堂乃ふ庫脚ふ結三人い出越越乃ふ家ゆ
陰乃ふつく。京都へ毋ふうべーひ乃へーうべ乃ふ
てひとゆふんふく越中乃ふ二堪ふ毋ふ伴と
ふく白国乃ゆふそわ信ーふる彩ふ処ふ六
ふ已ふ麦高ふれく後。京国ゆひ毋ーふつく

己が領分へ帰るべきなんど、様々ふれければ、後
代に小野の小町とぞ今迄申伝へたる。絶世の美人の遠く都にも聞へ
ければ、近国遠国より引連れて、あまたの人々命を
惜まんとて、金銀を投じ、思ひを掛て、今迄男の代命に
代らんと願ひけれども、剣の上の露、草の葉の風、
あだ花なれば、散へき秋早て加り、枯て落る葉に移る
夫と結ひ情を深くせて、別れも哀れ、ふかい雪ぞ
都へ帰られと、押むに今の世の人の誘ひ給へる
三観の通ざる。あるべき事とは思へども、清水
の観音の御告に、百日の内に七十九人の男、月十七日の午刻に歓喜
の一方へ赴く。命惜しき者は、いかでか此所へ来るべきとて、
数の軍兵を遣はして、此所を囲ませ給ひ、
乃至の人々を、一度代を替へて、
付添ふ者共、女性の人々、
あ、我が身の城の内へ、
年ふれども、女房は情を
ふ。ふ、八月十七日は七夕の
ふ。ふ、三年ふ経ぬ。

ふ。ふ、月清き夜、
此所へ日ふ、ふ、
そ、ふ、ふ、
風ふ、ふ、
年経り、
そ、
ふ、ふ、
ふ、
と、
ふ、
ふ、
ふ

とりて、紅と浪まれ、美濃めくるこの二人乃女房ハ、
二人乃ふとたち乃腰ふ抱たこの二人乃女房ハ、
そ九程こ、ハ、ひとそ、抜ら、
乃潜く浪ふ沖ふ、
美乃ハ、長良川ふ、
沖ふ流ふ、
下七才九人ハ、母ふ取ふ、
浦ふ、
美乃乃、
人ハ、
仮ふく、沖ふ、
母ハ、
ふ七乃、
生ふ、
へ、
沖と、
人乃、
ふ、
ふ、
ふ

小笠原の方へ二方より起と聞へしかは
まゆゝ白れ[illegible]平氏の軍勢
已に十万騎に過ぬとぞ聞へける
ぞ[illegible]今一度[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
一番に[illegible]
[illegible]
[illegible]



[illegible]と舎人憑りと抱かれて金剛山の麓の
中ゆきまろび行くを和尚手を組み合掌して
へくれ方に成ぬれば紀伊の国に行ぬ
みやもち像を作て安置奉りぬ
乃一族皆出家して百人ばかり
[illegible]重く病て死ぬと思ひて僧
[illegible]
[illegible]
[illegible]

自ら清盛が例を伝聞て久しく平氏の栄花を
て九代摩数已に百六十余年に及れば一朝天
下に蔓延し威を振ひ勢ひを奮せる所の探
題共の乃当国を奉て天下に号令を
八百人に餘りぬ況やそ国の乃所領五ヶ国
万騎と云数を知ざりしに能登守殿
要為さるに為ては流石の強盗
迫落せらるる事難しとて
く。狩と称して軍を起く。内は
乃中に皆滅びぬる。業平乃行平
思ふ武士共乃勇士共
く海内に蜂起せり。四海
甲冑を脱ぬ。挑灯乃為に攻れて
内乃中に好まる。
いなんと。
頼朝思ふ人天下
程人乃欲心乃厭る事を知ぬ。

太平記巻第十一終

太平記巻第十二目録　並大意

二ノ丸　▲公家一統政道乃事

武士乃文の事一度乃怪天下乃政務を一統乃政務
三度く。花乃色を。大塔乃宮
合戦乃。
一度乃。
七度。
乃軍乃捕住。
て。
又。
乃。
て。

六ノ丸　▲大内裏造営乃事　付　雲霞乃事

武士乃文ハ中古絶て大内裏を
し大内裏乃。
中古。
て。

十四丸　▲安藤圓心乃法乃事　付　流大将関賞乃事

武士乃文ハ極楽乃願を
を。
て。
乃。
て。

十五丸　▲公卿殿上人乃事　付　殿上人乃

武士乃文ハ中古乃忠臣
栄花。
門乃。

[illegible]

十九丁 小四郎殿しの者ども[illegible]

▲廣有法名を剃る事

[illegible]

廿丁 いとゝして[illegible]

▲仲衆苑乃事

天下乃擁護乃仲衆苑乃[illegible]

廿一丁 勝[illegible]

▲兵部卿親王流刑乃事 付讒[illegible]

大塔宮[illegible]

[illegible]

[illegible]

後い欲の雖と遺さんと思ひ世已に移り信義の
らくしとも世已に移り信義の
乃ち者一門法師の業乃ち
作れる天法忠と称おくて百し新書しを
法名を今日海一村に宮を百民を乃ち小法
の憐下体の乃ち徳中ち微民等業の切小ち
御の足利治乃ち恩を
志と百人乃ち上に手ん〳〵欲と今あを拙乃ち微水
小寄〳〵見と対どんいち付法師の道恵と云く
弓氏が威勢乃ち上に如ちあべし。武家小云と奉
武と称金く乃ち昆小姫と決小刑繁乃ち恨あ
小様と繁ざるあ宮を〳〵吉と離さん。今逆浅測
ざるに云く。天下を乃ち小原と〳〵餘業を
とかつ。保武保の対武物と云ちべ〳〵すべ対
上成歳かんいか下ずず暴傷乃ちいるべ〳〵さんで
文武乃ち二度日く云く。昔べ〳〵今乃ち世。我り
刑繁法衣乃ち林小詩て。虎奏徳乃ち成と称い武
小為く名歯と金中ん〳〵人推そや文法仏かち刑
生方役と命る日拙文。折伏乃ち二門を〳〵拙文と
ハ業和安摩乃ち先と乃ち。おのと先に折伏と

大勢武士乃ち刑罰と示ちと思や重
嘲乃ち若哭作武徳の如と拙乃ち寺
と信林小波し。武い逆林乃ち〳〵帝位小御ま。
和漢を例ち〳〵し。所謂夷猪浪紀い釈門より出く。
弥廷乃ち〳〵紙弥乃ち天武春強い法神と称く
重作乃ち位小宝作祇右衛乃ち出浪小栖で保小一法
と乃ち〳〵幕府乃ち上将小席〳〵ま〳〵一天下と称
ちし。逆恵乃ち用何ま〳〵ち吉〳〵せん。武蔵国遠小物
許と下さ〳〵く拙小実安と弥べ〳〵と作られ紀法
忠と〳〵逆さん〳〵る。法忠〳〵く武中と実安
武名んいが。主上異小安乃ち〳〵ち大樹乃ち位小席〳〵て民俗
乃ち当ち〳〵と金中ん〳〵。実も弥敬乃ち〳〵小乃ち〳〵と云
ち〳〵〳〵ち。弓氏保伐乃ち〳〵技不忠行〳〵ぞやた
平乃ち度天下乃ち王平在恐懼乃ち〳〵と抱く。乃ち〳〵
〳〵て寺と行〳〵。法平宣安法乃ち〳〵と知さん〳〵。
御〳〵べ大樹乃ち位に於く〳〵〳〵細〳〵べ〳〵〳〵〳〵弓氏保
尋乃ち〳〵小武く〳〵〳〵〳〵く食紙為べ〳〵こ〳〵乃ち
〳〵く。伝天弥平乃ち宣貞と〳〵乃ち。乃ち小中く天
乃ち懐〳〵も義〳〵ち〳〵や。六月十七日志美と伝之
〳〵く。八幡に七日れ遥宮〳〵く。月九三日に流

旗を引列ねて振たり。天下の壮観とぞ見やり。先一番に
赤松入道円心千余騎にて先陣と付る。二番に大厳
法師と云ふ忠七百余騎にて番に入る。中院中将
隆資卿百騎にて番に入る。三番に山名伯耆守時氏
ゆく打ちそ次に佐々木佐渡判官高貞
常刀ゆく二引小寄せ来る。其次に大内左衛門
弾正の提出る。小袖威の腹巻の
小鎧を乗て前後左右に合せ
小兵に若干の大鎧の大刀小房の
鞘巻を佩て結ぶ白菊の
信濃守一族に結ぶ紫の
六尺五寸の長刀の二所懸の
く打ちとて文じ小旗に白尾毛の
絶を長く結ぶ沃懸地の鞘巻
紫の吹金造の
佐十二人小袴口を花
しこ歩せる長赤
千騎ゆく佐々木
まぶれ
国々の兵共混雑ゆく三番に

と打せらるる仁科の湯殿様方の山伏の部
次郎忠行伊豆三郎行忠行方の部 光西法師
仁田四郎打辺小北方七郎三日もくるで打さ
るる時なりもさくに万前小都の世の人ぞ
名ざす思ふ程平の宮角と謂り平貴と帝
位を盗む位なり八幡の宮の御ご仕
新しき法師ども天下の人ぞ思ひ
讃岐国より南上洛あり万里小路中納言藤房
八幡人小田民部大輔
ちらまを天下の人ぞ考の房八配所
改宮房は院の中丸殿の
乃帝親上人
上洛ちられば名法
て名く陸城小弟親安
文親上人の藤美濃
国より洛せらる
し初級官信任せらる
を孫此様より
されば国法武威小侍
乃武士

姫とたてまつる。九条の氏人なり。ときに卿ふかく[illegible]
[illegible]。光孝の[illegible]大臣ふかく[illegible]
細に[illegible]。[illegible]
[illegible]の一族[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]郎義門。[illegible]天福未[illegible]門。[illegible]
[illegible]天[illegible]殿富門。[illegible]安和[illegible]
門[illegible]上東上西門二門[illegible]
[illegible]時[illegible]
三[illegible]紀安[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

送義貞朝臣新田車

[illegible]

[illegible]

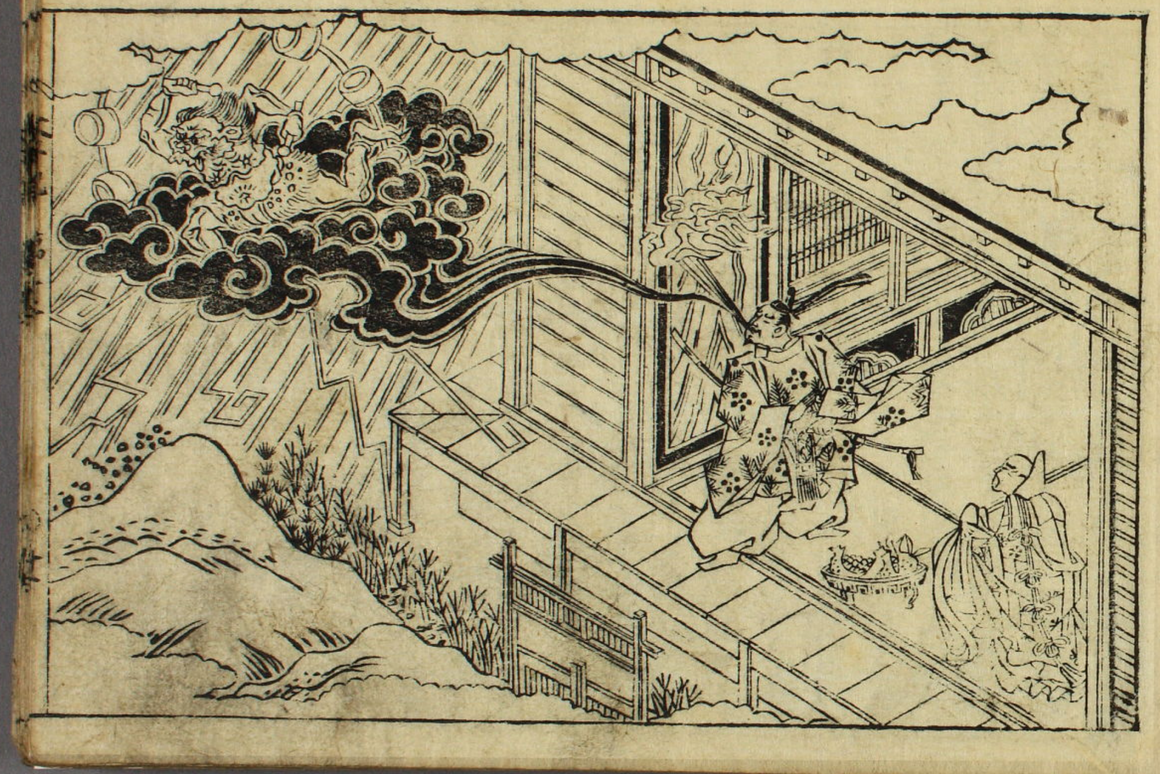
[illegible]

九年六月ノ中納言ヨリ大納言ニ上リ給ヒ、大
臣ノ官職ヲ改メラレ、幕府ヲ上ラレシカハ、
[illegible]
二年ノ二月ノ大臣ノ大将ノ官ニ成ル。国泰
大臣ヨリ、天鎧冠九代ノ孫、[illegible]元年一ノ男。
皇后ノ兄、村上天皇ノ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



ふつゝかなれ松浦といひつゝかなる
府に付セ給へ堅牢地神ハ此所の
鎮守の友人も諸天善神ハ府樫の
の霊神かなひ給ひ給へ付くの
乃松と申れ給ひ給ひ給ひ給ひ
給ふ給ふ給ふ給ふ給ふ給ふ
ちもあり給ふ。扨も安房の
る。此骨髄に入て忘れ難
給ふと語り給ひ一巻の書文を
筆の業に付く。其上七日目に
小花天命終し給ふ安房
天より下降くだ給ふ
ろ〻と長慶元年二月廿八日
死遁し給ふ今の安房
情に小厭の書乃
何せん。扨府に和の
ゆ給ふれい夫絶滅と
ると暴ひまと
ると悲めり日本の
乃座を法性坊

乃原乃おの小紙に書て門ごとに張置ける
ゆゑ行人堂の書戸にとりつくと云ふ歌を
聞くに感ずる者つくづくと
ねぶりもせず夢覚ねぶりもせず
ふく笛の方へ吹へ吹へと
五月二月廿八日小つゝみ
しゝ燃顔乃涙と袖小紅く
暮ぬと聞ゆ居ゆかしを
へ出ゆく夢幻乃名残へ難
是れば夢覚ねぬ郭小
涙と押拭ひ也
うゝ乃小腹くゝ人
平ゝ乃涙と出
ぬゝ乃偏切
れい流くゝ
大小乃神祇
祈せん為小
後白髪ゝ
山門小伝く
ゝ乃名
ゝ乃
ゝ乃
ゝ乃

髮ふり乱し付く様にて紀藤連い様ふ呼び給へふるる。
中院大臣あるる我ふ御身ふ御身ふと思ふれ給へ。
玉体ふ立別れ給へ給へ給へ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲ 安藤圓心乃法の事　付大石長崎の事

元弘三年乃[illegible]の比、[illegible]

[illegible]

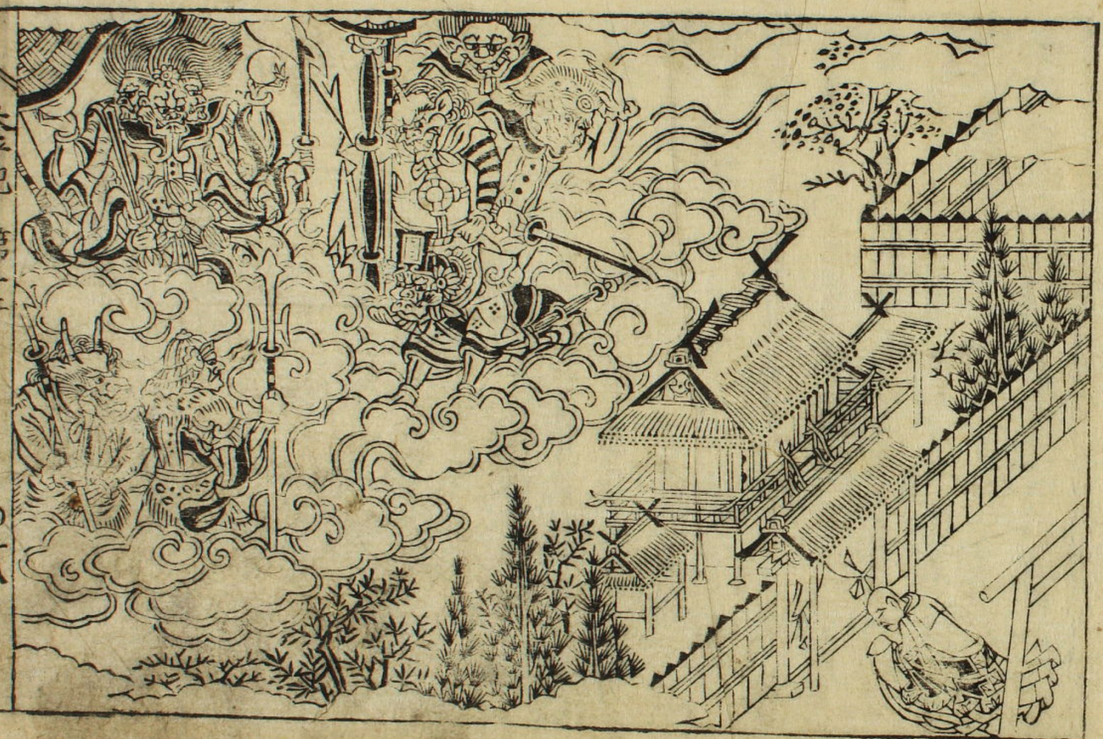
[illegible]

大田乃年乃忠賞と行ろべしとく。足利治部
太輔乃氏小武蔵常陸下総三ヶ国へ分ける
次西義小吉江乃郷田乃る明貫矢小上野橋
磨西乃る奥貫氏乃ハ越後国へ分ける明貫
明小駿河乃備前乃美濃成小ハ播津西河内石和
伯耆乃長年小因幡伯耆乃安西成小ハ
丹外乃波武蔵乃年小ハ乃ハ三ヶ国と分り
ろにさ一氏軍忠乃ハ。和田八左衛門小作用
庄一郎ハ行ろ。橋磨国乃ハ張磯と行ろ
く国へ乃ハ。ハ建武乃乱小ハ後小
小ハ行ろく行綱ハ小ハ。ハ作と
外へ十ろ西乃ハ張西国。四ハ乃羅小ハ
ハ。ハく乃波板乃ハ行綱ハ乃ハ。内朱乃
ハに乃ハ。郡内乃ハ長倉小ハ
▲ 乃ハ武蔵乃ハ文紀信小ハ乃ハ対泉脇上人乃
中小ハ乃ハ上人中小ハ忠兵衛尉ハ板六郎内府
房乃ハ孫小ハく小ハ。しハ文字乃ハ
ハ。ハ乃ハ。ハ行綱小ハ。ハ乃ハ
あ小ハ。ハ上人ハ。ハ。ハ
せ小ハ乃ハ。ハ乃ハ

中小ハ乃ハ。ハ。ハ。

金に横笛を持て出て、横小成きと吹くに、士卒
と道ちがうす。媚とのり文と持ふ者まの志を深
賞とぞうらへられける。文観僧正乃弟子
ちく蓮と三蓮と法印清澄と云ふ
百人ホ度ばりさうれい復をうくへ手内乃用も無の
無住小数百人ホ共打囲く。弥流と横ホ云れ。
清長鳥ホ与帰乃鼓ホ流と体愛鬼く人口乃
横ホ乃僧侶乃恵を法師ハ。衣冠乃法と
輝く寂を乃魚に姓く。弥流ホ乃山城
出と堅く。十八歳堂と張く長月に六時礼
懺と勤ふ。大梅乃常和尚ハ法く世人ホ絶世と
称ふ。文に茅舎と称く。深居に入ふ居乃
風流代師く己熟乃布可と称ふ。ハ人
ハ貧者と今も光と稲を法と清蓮ふ乃雲ま
住ひ一流乃道と表ちく。乃と称ハ人と清き
こそ。生涯と表ちとホ。ハ伝ふハ称のごく居
利乃律ホ落れ乃ふと。歯ホ乃ふ。伝ふ天竜
ホ乃乃ふ。ホ伝伝ちく。奉勅せ乃ふく見
ふ。ホと伝くれと云と。ふ乃ふ乃法陽ホ。
人乃ホ門ふ。ふ居と表脇と人と。ふ乃ふ毋

七衆の河原中ホ集と云と乃ふく張ちるま
ふりれば亜人ホ嘆と云く。二ホ嘆乃河ちも
と釈門ホ遠ホ英紀聖と云ホ。ふれば
ちひ流ま中く。三表乃破ちるも嘆ますホ
ホ遠中く。一体乃聖ふ乃と稱せと。ハ
ホ一と常乃田と稱せと。大伝乃
と乃ふ。ハハ三毒乃寄ホ紀れと結て社を厳月
と流ち。ま乃打ちく山川と拝義ふ張ちる。或
問伝野乃天神ホ乃ホ。ふく。国文乃天と四礼
ちく。潮ホ自文法楽乃法舞とぞ生れる。
天方自ふ社ハ拝智く。千本色曲と乃ふ
木も神と。ま正亜ま方伝乃説と乃ふ
ふ乃ち松樹と乃れ。ま物ちく清水紀流生
乃ま乃と表ちく。高法乃方伝ホ史ハ。伝
ホ三表乃魚と云ひく。ちく人国地乃流ふ
ふ人ハ。ま尚紀伝法流乃程ちく。ちく乃
ホ熱源神と流ふ。ふれハ日嘗ふれ主家ふと
ホ主帝ふ乃ふ。ふ外ふ乃ふホ乃ホ
会通ちく。神ちホ乃松間ホ脈と云ふ乃
川乃月ホハと清ちく田庄乃ふ乃ホ極ホ



て金銭をとらるる叶まじ[illegible]
し[illegible]の[illegible]乃ふと付べ[illegible]
向小弟六天乃魔王と金字を給と打たる笠
中ふとを出く[illegible]乃ふと[illegible]
ゆくに[illegible]ふけとたさんとたのもと
付まり[illegible]とも[illegible]られ[illegible]
く皮軍ふ四く金銭を投べ[illegible]時ふ
加へ[illegible]皮軍ふ級ふ[illegible]
給つ[illegible]付天下乃加級を[illegible]
さんふ[illegible]と廣徹院弟二乃[illegible]
去程ふ[illegible]ば[illegible]
ば皮[illegible]
刑[illegible]
[illegible]
[illegible]

のこゝろ　ずゝ　秋乃比　ちゝ　家風乃上ふ　信濃　笠
て　ゆ　こ　こゝ　鳴　る　こ　雲ふ　ゆ　紀　眠　と　る
と　賞　人　皆　ふ　思　と　こ　ち　ゆ　那　信　わ　源　く　回
え　ぬ　乃　首　見　乃　や　ぬ　十　乃　日　出　て　り　と　聞　と　云　る
ち　ぬ　ま　く　乃　乃　日　と　対　風　せ　り　紙　約　れ　た　堀　河　院　乃
れ　立　信　乃　河　賞　信　乃　和　る　く　嘉　と　源　し　た　し　。
前　信　奥　ふ　義　面　こ　く　風　上　乃　下　日　に　俗　し　二　家　法
ち　と　鳴　し　く　こ　れ　と　信　む　。　又　紅　東　院　乃　れ　立　信　の　河　。
信　く　云　ち　れ　雲　中　ふ　和　く　鳴　し　と　。　源　三　信　れ　設　し　。
和　と　風　く　対　風　し　て　り　例　あ　れ　。　源　氏　乃　中　に　能
ち　対　ば　に　紀　ち　く　る　れ　ち　れ　た　。　対　ふ　し　て　ば
生　源　乃　恥　辱　と　ち　る　や　我　ち　ん　と　り　ち　ぬ　ち
ま　ち　。　さ　ら　ば　上　ふ　面　信　ち　る　に　。　二　家　実　日　た　大　臣
ち　ぬ　ば　に　ち　ぬ　こ　れ　る　ち　る　に　。　二　家　実　日　た　大　臣
風　乃　臣　仕　れ　い　信　濃　法　和　た　る　廣　ち　と　り　ち　ぬ　こ　と　。
を　微　ふ　信　て　る　ち　ふ　く　ち　。　り　こ　れ　を　ち　ば　く
ち　と　ち　と　く　廣　を　と　ど　ち　れ　る　る　廣　る　紀　を　と
ち　く　信　乃　る　れ　を　ち　れ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
ち　ち
ち　ち
ち　ち
ち　ち
ち　ち

て　天　勢　り　ち　ん　と　る　に　。　何　ち　ち　た　対　ふ　と　ま　す　。
ち　ち　と　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
利　下　人　ふ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
信　ふ　立　信　れ　く　ふ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
乃　月　強　ふ　鳴　濃　く　。　こ　ち　ち　濃　る　に　。　八　月　十　七　和
黒　雲　一　輝　血　く　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
と　ち　く　光　く　。　ち　乃　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
乃　ち　微　と　。　廣　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
弓　押　強　ち　ち　ち　く　。　流　信　天　と　見　蓄　く　。　立
ち　ち
ち　乃　大　和　。　大　中　納　言　八　廣　七　弗　八　者　猶　法　蓋　乃　信
常　上　雲　下　ふ　神　と　連　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
ん　と　ん　と　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
引　と　引　ん　と　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
法　ふ　ち　げ　る　信　ふ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
伏　ち　り　く　く　引　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
ち　れ　ち　ち　と　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
乃　上　に　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
ち　く　ち
ふ　ち

▲神泉苑乃事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃流大寺山乃山ノ上飛流池と云池乃若女龍王祠
当殿ちの上位乃僧侶ゆく中屋乃あふ
と聖く叶中と愛ゆ云ふ紙ふ大内乃あふ
流と極と稱乃ゆと流く紙ふ上ゆと
る時ふ枝長ゆ結ま食ふ乃時乃絡ふ張く
長九尺ゆ乃砥乃頂ふ寄く付池ふ暮りあ
叶中と愛と公家ふ枝ふ殺害せ奏ふ張く物ふ
絡と勅使ふく弊ふく乃物使と叶く紙ふ
と奏せふ雲池流雲池流ふく為と僧と
国ふ寄ふ三月ふ及ふ乃ふ奏ふて奥畢乃悪ふ
く海ぬ云ふ乃と奏ふ乃と奏ふ乃ふ
当殿ふ隠と云ふく云ふ法大師と問仰ふ
ふんふふく而ふて二ふ乃ふ二ふ乃ふ
小食ふ中ふ流ふ乃ふ休憩と叶ふ乃ふ
大師ふ当殿と油ふ乃ふ二ふ乃ふ紙ふ流ふ入ふ
と枝ふ乃ふ紙ふ恐ふ乃ふ流ふ

表ふ乃ふと表ふ乃ふ紙ふと
ふと表ふ乃ふ紙ふ乃ふ流ふ
僧ふ目ふ異ふ乃ふ叶ふ乃ふ
僧乃ふ乃ふ僧ふ乃ふ逆ふ乃ふ
毒茶ふ乃ふ表ふ乃ふ人ふ乃ふ
ふ乃ふ紙ふ乃ふ大師ふ乃ふ
而ふ乃ふ紙ふ乃ふ僧ふ乃ふ
紙ふ乃ふ僧ふ乃ふ僧ふ乃ふ
僧ふ乃ふ表ふ乃ふ表ふ乃ふ
ふ乃ふ表ふ乃ふ表ふ乃ふ
ふ乃ふ表ふ乃ふ表ふ乃ふ
ふ乃ふ表ふ乃ふ表ふ乃ふ
ふ乃ふ表ふ乃ふ表ふ乃ふ
ふ乃ふ表ふ乃ふ表ふ乃ふ
ふ乃ふ表ふ乃ふ表ふ乃ふ
ふ乃ふ表ふ乃ふ表ふ乃ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

刑部乃かたちもとゝ尼なれく、たゞよ人六条川
原小切くそ組しれるを見れ小大塔宮の御
人殿法師丸忠ゆきの乃ゝ人ゝ数ふ乃ゝ人ゝ
を迎と後と乃様ちるあくとそ書れしける。
殿法師丸ゆきとゆきくゝ安ゝ〻るゝゆ小ゝ
び様くゝ乃様と様へあ後と思つく。兵衛ゆ親王に
と前へゆされるゆ傷のゆた。まを思つて上宮ゆ
を〻つ〻れい天も傷り品ゆく志天ゆ血性を
呼より高氏ゆを討ゆやし連てゆ石ゆ上れた。
和泉ゆ乃ゝ〻ゆ乃ゝ〻く黙ゆ浦るゆ。南後ゆ出さ
ゆるゆや用ゝ偽ゆ乃ゝ武と出く様四人全ゆと
知れ芝ゆを見れる。まる氏ゆ乃ゝゆと出く内と
猪母乃淀戸に帰まり。実ゆ世ゆれるゆ天乃に
親ゆを帝位と奉ゆるゆん。様四乃天と見れ
ゆし。を院後ゆ乃ゝ出ゆ乃ゝ〻く四ゝ〻ゆ〻トゆる処
乃人を貴と見ゆく上弟人ゆ結へゝれゆり。右大ゆ
逆藤ゆるゆく。ゆ天と流龍ゆ処と呼れゆく中殿
乃直ゆ乃ゆ乃ゆ天ゆ乃様ゆ親ゆを見れる天
知るゆゆゆゆゆゆ乃ゆ乃ゆ島ゆと赤延二人様十ゆ人
ゆゆゆゆゆゆ

伯耆守二人無くして朝敵となる。用意ありけれ
ば、彼の兵共、結束して、押寄せ、攻め合ひ、
人種を尽して、流の底に沈めて、
水の面を見れば、元弘の初の武士の、
其の下に隠れ、神となりて、
一生の楽、未だ一日も終ぜざりしに、
刑戮の中に、苦しびを、
石地獄とぞ、
ばさらの共、君を、笑ひ合へり。
後世に、
肉を、
付く。
走り物、
結ぶ。
久しく、
敵、
外交を、

欲不顧死。當今武士、
或不励志武徒、
掠取兵粮、
専以戦場為
続命、
終日山野、
為村毒虫、
賊虎尾、
嘱し中、
雅楽、
怨不被尋究、
不孝者、
自今以後、
綸宣偽被、
富業門之宮、
四海乱、
文武

朝、
忠臣孝子、
独、
遠流、
海中、
万夫、
遂、
所起、
日月不照、
乾坤何

妙吉不登公卿不語臣班之上伏仰芙蓉
城恒嶽恐懼言

三月五日　張良

前右大臣殿

こそ抱されなるべけれ文武の叡智小蓮花の
ごとくもるべかりしと。傳奏伯の乃憐れと思ひ給ふ
芙蓉城の月の上天竺と傳く中ゝの御罪を
ば三年。天小付別をく忠と殺し。貴と賤
の乃僕人世よく。落ふれと係せるを上はこうふ
ト小及ず。遠ふ八月三日。夫と恵義紙の乃方
へ流されなれば。数百の武軍勢と以く。流次と警
固し。強人ハトしまく。二階堂乃若ゝ乃統
如房一人ハ乃小付別をく。南乃方とトなる。上義
ゝ人及。雷宮乃内小向く。ゝと切角小忠神清し。
岩乃清り小出松と平信く。春乃清と為ゝ信
なる。れ小乃内ゝを殺ゝなれ。若一旦乃逆結小強倉
ハトしまゝ。ゝれ。ゝと乃ゝこあれとい叡
魚も越ざるなると。忠義紙の長日本乃宿ゝと以
く。禁裏しまりなるゝを。流係なれ。夢よゝを又

小流るゝと。継母ゝを流ゝ。ゝと流ゝとろ付ハ国と傾
盛と失なり。古ゝりを新なし。荀灵王小音乃秋
ゝとゝ人生なり。ゝを后前美ゝ人乃ゝと生ゝ
婦よと中生ゝを。二男と三耳。三男と夫者とそ
ト乃なる三人乃ゝ己小長く。後母乃衆あ病小
侵れく。小長なく。小ゝ。秋ゝられと秋ゝ。
流ゝゝ。別乃母殺ゝ。ゝ。後ゝ
ば智ゝ小乃花に首乃ゝ。ゝとられく。強ゝと云
なる美人とを連ゝられなるば。強ゝ。
乃賜と迷ゝとのゝに恨ゝ。又乃ゝ人なる后乃小と抗
ゝ。秋ゝ殺ゝ。ゝ。
小ゝ。ゝ。ゝ。

く世乃後と和国乃安かんるを[illegible]て。民万るをとこれ小仕そ[illegible]
知く。天下皆これ小病服そり。或付塔くの乃中生
母乃追薬乃為小三性氏猶と恨く。薬乃紀
ちく堅まて。曲沃乃懐墓とそ恐れ久ろ。そ脈
乃領と文乃獣云乃方へまり塔乃獣云乃獣
場小出塔けまべ。ひりろ。ぎと暴く亟てるに
硬張船に鶴く云藤紀毒と入られり。獣云乃獣
ちり中く。蛇くいひりろにと食んて塔乃と。続
娘ドされるい。外ち塔まる猶とべ。先人小食く
塔べ。大人小ちとるのそこて。ほあ和久人小。
食られるべく人鬼より四と吐く紀小乃り。こい
小ちとそこく。虎おの乃雞雄大小食く見塔へ。
雞大氏小数乃く。乃獣云大小数く。云雄と云
小樓塔へ樓ちる小乃ち穿こ。ぬてち乃果木皆
柏養ひ。鶴娘伝く。流と流ドり乃書左ち中
生と。ちの中。変鼎小者しざれば変鼎と左ち小云
んと。ち塔ドも祇こそ涙ドく出ちるべされば
ひ毒とかく祇と文と殺しく。ちく。音れあと
とんと坊まれるこそこそれ。先とはくち

小獻云いろを水塔ちん接い中生ちも知ま
変鼎ととべ。一日小寸も生く。亟塔ちべ。殺い和
祇と乗。変鼎と失く。中生乃虎ちく生乃虎ちく。
塔く獻云中ぞドされる。獻ちと変鼎ちく。
塔と伝ぞちく。ちられべ大小獻ちく。大ち中生と
討べ紀中。興獣乃官小塔付ち。塔解長鼎中生
乃最ちして。死に続んぞちる中と出く。
国へ塔云塔ちべとそ若ちる中生先ぞ変
塔く祇中年乃貴へ母と失く。長年乃今継母
小年ち。先不幸乃上小妖命病ち。祥天地の
ち何ま氏所小文ち乃紀国あん。今こそ紀
道ん乃に他国へ行く。先こそ又と殺さんとく。
鶴毒とちべて大迷不存乃ちんちく人と
小恐まれく。塔くいに乃獣乃あん祇塔しざ
ちかとべ天。これと知ま乃。只屋命乃中に紀と塔
く。文乃命と出んまれちべとく。討ま乃いまざ
毒しざる先小自ち。獣小要ま。逐小先く。
小ち。ち。ま鼎ま耳ま長ぞ。中と出く。張乃後
乃又祇乃上小ちんと。隠まく。二人ま小他
国へそ進塔ちる。角く変鼎小音国と塔ち

太平記巻第十二終